

The Japan club youth football championship 2020

Referee reports

CGFA KEN TSUCHIWA

Our mission

- 以下の大会趣旨を理解し、大会が成功するよう、審判チームとして大会をサポートする。

日本クラブユースサッカー連盟は、

日本の将来を担うユース年代選手のサッカー技術の向上と健全な心身の育成を図るとともに、クラブチームの普及と発展を目的とする。

Our challenge

Target

昨年と同大会での課題…

- ヘディングの競り合い（正しい見極め）
- アドバンテージ（効果的な適用）

Preparation

映像を使った個人分析、グループディスカッション
競技規則の理解と解釈、Consideration pointsの整理

Challenge

1. 試合中の実践
2. 自己分析（Ins.フィードバック、試合映像）
3. 課題の改善

Feedback

【対戦】 鹿島アントラーズユースvs.清水エスパルスユース 【結果】 2 : 1 (0:1) (2:0)

【審判チーム】 主審：土岩健、副審1：青木祐輔(神奈川県)、副審2：高桑健一(群馬県)、4th：榎波亮介(福井県)

【インストラクター】 山崎裕彦氏

- **ファウルを減らす方法を考えてみてください。**
→ファウルが多い選手へのマネジメント、時間や間合いの使い方、笛での表現(メッセージ)
- **ファウルを見つけにくいシーンが少しあった。ベンチの声に左右されているように感じた。**
→1試合の一貫性を考慮すること、プレーへの影響・ダメージの強さを素早く見極めること
- **FK/CK時の手順・ポジションにより意図を持たせてください。**
→監視(フォーカス)する場所、どのタイミングでどこを見るか、争点が串刺しになるリスク
- **ヘディングの競り合いは正しく見極めできていた。**
- **インプレー中の動きとポジショニングは特に違和感がなかった。**

Summary

今回は大会へご推薦いただき、ありがとうございました。

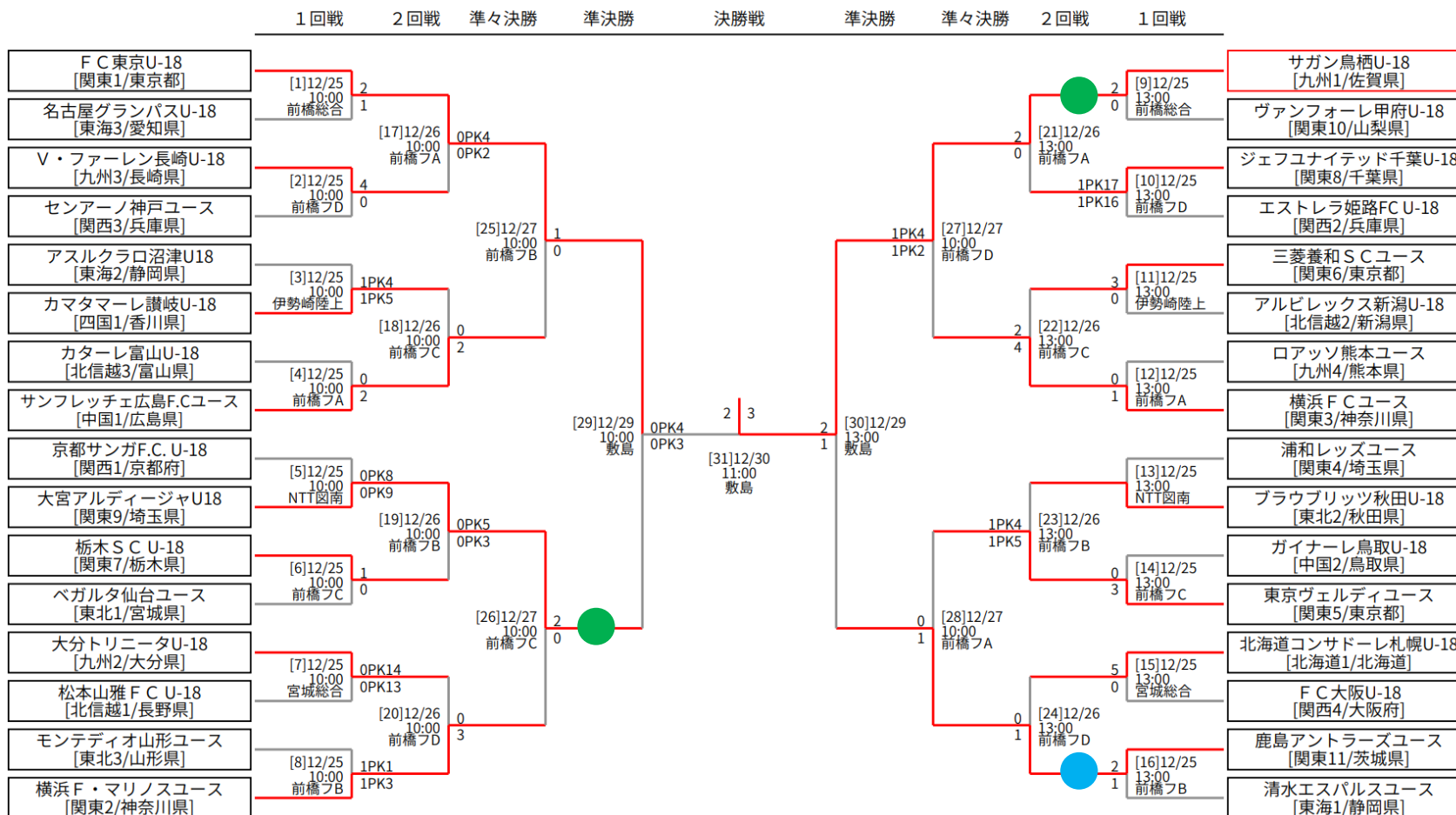
新型コロナウイルスの感染状況が悪化している時期でしたが、日本クラブユースサッカー連盟をはじめとする大会関係者様、サッカー協会の皆様のサポートのもと、万全の感染対策を行い、無事、大会を終えることができました。審判チームとしても全体の課題をリモート研修会の場で事前に擦り合わせしていたことで、選手がプレーに集中できる環境をつくることができました。選手・チームのレベルは非常に高く、タフでスピーディーなゲーム展開を維持しつつ、選手の安全に配慮し、公正・公平なレフェリングができるよう、心掛けました。この事は、CGFAの活動でも強く意識していることですが、本大会では、その“重要性の本質”を学ぶことができたように感じます。

また、全国各地の2級審判員とJFAインストラクターの皆様と一緒に大会をサポートできた事もとても良い経験になりました。今回の経験を中国地域での活動や自身の今後のステップアップに活かしていきたいと思えます。

土岩健



Result



Appointment (R)

- : Shohei Oto
- : Ken Tsuchiwa